

行政改革の取組(骨子案)について

令和8年度 第2回長野市行政改革推進審議会

令和8年7月9日(木)

総務部総務課

FEEL NAGANO,
BE NATURAL

この街で、わたしらしく生きる。長野市

(1) まちづくりの進め方に関する主な意見

ア 地域の活性化

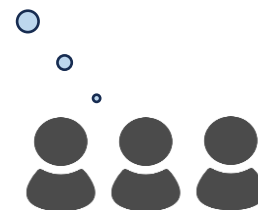
- ① まちづくりに人口や地域の維持といった観点（移住促進、転出抑制など）があっても良いのではないか。
- ② 中山間地域では高齢化と若者流出が進んでいる。まちづくり・仕事・DXを連動させた改善が必要

イ 説明責任

- ① まちづくりの進め方で地域の自主性の尊重とあるが具体的な内容が見えない。市民にも見えないのではないか。
- ② 市が何をしたいのか分かる書き方、例えばDX推進なら「デジタル申請の拡充」のように書くべき。

ウ 市民との協働

- ① 中山間地域の住民自治協議会やNP0との連携を考え、市も一緒に汗をかく姿勢が重要



(2) しごとの進め方に関する主な意見

ア 職員個人の成長とキャリア形成

- ① 将来の「見通し（ビジョン）」提示による早期離職の防止が必要
- ② やりがいと自律性を引き出すには、主体的な姿勢への変化が重要。目標設定で成長が可視化され実感が得られやすい。
- ③ キャリアプラン導入は、エンゲージメント向上に繋がる。
- ④ キャリアカウンセリングを通じて職員の方向性を見極めるとともに、職員の立場からの視点も必要である。
- ⑤ 職員一人ひとりの特性を見極め、どう育成してパフォーマンス向上につなげるかが重要
- ⑥ 面談や対話を重視した人材育成の考え方を市役所にも取り入れていくべきではないか。
- ⑦ 職員が将来のキャリアをイメージできるような指針や文書など、キャリアパスのモデルがあればよいのではないか。

イ 人材配置・活用

- ① 専門人材の確保には、個人の適性を見極め、特定の分野に強みを持つ人材を計画的に育成していくことが重要
- ② 仕事の進め方より組織・機構のつくり方が非常に重要
- ③ 役職を通じて組織をより良くしていくことも重要
- ④ 平時と有事は繋がっており、有事の際に横断的に動ける人材が重要
- ⑤ 組織として異動に関する今後の方針があっても良いのではないか。
- ⑥ 定年延長で役職が外れた専門員の活用も大切に考えるべき。

ウ 職場環境整備

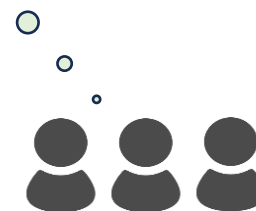
- ① DX推進や育休制度の利用促進など、事業主による職員の働く環境整備が必要である。
- ② 女性活躍推進には育児支援も重要だが、市役所の仕事の魅力を伝え、働きたいと思われる職場づくりを進めるべき。



(3) 財政運営の進め方に関する主な意見

ア 経済力向上・収入増

- ① 観光資源を活かし、まちづくりや収入増を考えるべきではないか。
- ② 市全体の力を高めるためには、人を増やすことに加え、経済力を向上させる視点も重要
- ③ 市の収入増を目指すことは、地域経済の活性化等にもつながる。こうした広い視点を持って考えていくことが必要



(4) DXの推進に関する意見は、ありませんでした。

(1) まちづくりの進め方

- ・対話と共感
- ・住民参加(自治)
- ・協働と共創(公民連携)

(4) DXの推進

- ・あたりまえからの転換

(2) しごとの進め方

- ・人材育成
- ・働く環境
- ・行政経営(行政サービス、マネジメント)

(3) 財政運営の進め方

- ・政策形成
- ・健全財政
- ・公共施設マネジメント

(1) まちづくりの進め方

キーワード

《対話と共感》

市民等との信頼関係

情報共有

説明責任

市政に参画しやすい環境

《住民参加(自治)》

地域活性化

地域の自主性の尊重

地域の力の掘起こし

地域資源の有効活用

地域力

《協働・共創》

圏域全体の活性化

市民、団体等との協働

自治体間連携の強化

公民連携

【キーワード種別】

委員からの意見(R8.2.18審議会)

委員からの意見(R8.5.20審議会)

事務局で追加

《対話と共感》

対話と共感を大切に、情報共有と説明責任を徹底することで、市民との信頼関係を築くとともに、誰もが市政に参画しやすい環境の整備を進めます。

《住民参加(自治)》

地域の自主性を尊重し、住民参加(自治)によるまちづくりを進めるとともに、地域の力を掘起こし、地域資源の有効活用を図ることで、持続的な地域活性化を図ります。

《協働・共創》

市民や団体、企業など多様な主体との協働と共創(公民連携)を進めるとともに、自治体間連携の強化を図り、広域的な課題に対応しながら、圏域全体の発展を目指します。

(2) しごとの進め方

キーワード

《行政組織》

組織の活力

組織の効率性と機動性

部局間連携の強化

《行政サービス》

接遇・窓口の改善

行かない窓口の促進

窓口開庁時間の見直し

行政サービスの見直し

職員・組織力

《人材育成》

人材の確保・育成

柔軟な発想

意欲・能力

コンプライアンス意識

人材配置・活用

余剰の確保

成長とキャリア形成

多様な人材

《働く環境》

職場環境整備

女性の活躍推進

テレワークの促進

ハラスメント防止対策の強化

業務の効率化

《行政経営》（行政組織・行政サービス）

効果的で効率的な行政経営により組織の活力を高めるとともに、部局間連携の強化と機動性を重視した質の高い行政サービスを提供します。

《人材育成》

多様な人材の確保・育成を図り、職員の意欲・能力と柔軟な発想を最大限に生かすとともに、コンプライアンス意識の徹底のもと、職員の成長とキャリア形成の支援、適切な人材配置・活用により更なる組織力の強化を図ります。

《働く環境》

職員の多様な働き方を支援するとともに業務の効率化を進め、安心して働ける職場環境の実現を図ります。

(3) 財政運営の進め方

キーワード

《政策形成》

EBPM ※1

PDCAサイクル※2

事務事業の見直し

財政力

《健全財政》

行政コストの適正化

財源の確保

戦略的な投資

収入の増

経済力向上

《公共施設マネジメント》

適正配置

維持管理コストの縮減

長寿命化

民間活用

※1 EBPM(エビデンス・ベースト・ポリシー・メイキング):政策の企画をその場限りのエピソードに頼るのではなく、政策目的を明確化した上で合理的に根拠(エビデンス)に基づくものとする(内閣府ホームページより)。

※2 PDCAサイクル:Plan(計画)、Do(実行)、Check(評価)、Action(改善)の4段階を繰り返す、継続的改善手法のこと。

《政策形成》

質の高い政策形成や継続的な事務事業の見直しを通じて、効率的で持続可能な財政運営を推進します。

《健全財政》

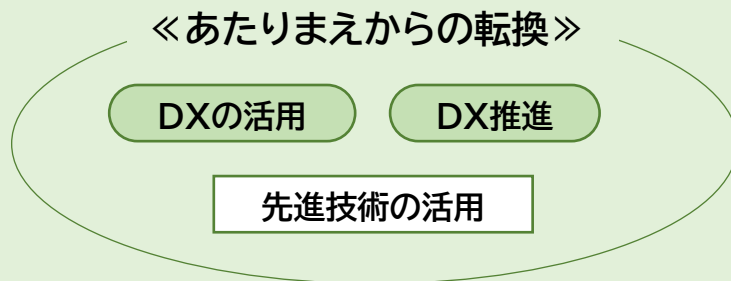
行政コストの適正化を徹底しながら安定的な財源の確保や収入の増を図るとともに、地域の経済力向上につながる戦略的な投資を行い、健全財政の堅持に努めます。

《公共施設マネジメント》

計画的な公共施設マネジメントにより、将来負担の軽減と財政基盤の強化を図ります。

(4) DXの推進

キーワード



《あたりまえからの転換》

先進技術の活用を積極的に進め、『これまでの“あたりまえ”から転換し、戦略的な自治体経営』を目指します。